伊丹福音ルーテル教会 顕現後第三主日礼拝のしおり
2022 年 1 月 23 日

前奏

招きのことば：詩編 19 編 8-11, 15 節

主の律法は完全で、魂を生き返らせ 主の定めは真実で、無知な人に知恵を与える。
主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え 主の戒めは清らかで、目に光を与える。
主への畏れは清く、いつまでも続き 主の裁きはまことで、ことごとく正しい。
金にまさり、多くの純金にまさって望ましく 蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い。
どうか、わたしの口の言葉が御旨にかない 心の思いが御前に置かれますように。
主よ、わたしの岩、わたしの贖い主よ。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス･キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。 （短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス･キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン**。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。
神様はイエス様をお送りくださり、罪と死と悪魔の力を滅ぼしてくださり、私たちの目を開いてイエス様を救い主として信頼できるようにしてくださいました。今週も私たちがイエス様によって罪赦された者として安心して、神様からいただいたいのちをもって置かれたところで精いっぱい隣人と共に幸せをつくっていくことができるように、どうぞ導いてください。
新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。
この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：第 1 コリント 12 章 12-28 節

体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています。足が、「わたしは手ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。耳が、「わたしは目ではないから、体の一部ではない」と言ったところで、体の一部でなくなるでしょうか。もし体全体が目だったら、どこで聞きますか。もし全体が耳だったら、どこでにおいをかぎますか。そこで神は、御自分の望みのままに、体に一つ一つの部分を置かれたのです。すべてが一つの部分になってしまったら、どこに体というものがあるでしょう。だから、多くの部分があっても、一つの体なのです。目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです。 わたしたちは、体の中でほかよりも恰好が悪いと思われる部分を覆って、もっと恰好よくしようとし、見苦しい部分をもっと見栄えよくしようとします。見栄えのよい部分には、そうする必要はありません。神は、見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。それで、体に分裂が起こらず、各部分が互いに配慮し合っています。一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、次に奇跡を行う者、その次に病気をいやす賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。

福音書朗読：ルカによる福音書 4 章 14-21 節

イエスは“霊”の力に満ちてガリラヤに帰られた。その評判が周りの地方一帯に広まった。イエスは諸会堂で教え、皆から尊敬を受けられた。イエスはお育ちになったナザレに来て、いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの巻物が渡され、お開きになると、次のように書いてある個所が目に留まった。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである。」イエスは巻物を巻き、係の者に返して席に座られた。会堂にいるすべての人の目がイエスに注がれていた。そこでイエスは、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められた。

讃美歌 534 番

1．ほむべきかな 主のみ恵み 今日まで旅路を 守りたまえり
※よろずの民よ たたえまつれ 「あがない主に み栄えあれ」と

2．ほむべきかな 御名によりて 受くれば ものみな 良からざるなし ※

3．ほむべきかな 主の御名こそ いまわの時にも 慰めとなれ ※ **アーメン**

説教：「主の恵みの年」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

ルカによる福音書によりますと、イエス様はバプテスマのヨハネから洗礼を受けて、公けの働きをお始めになったとき、次になさったのは荒野へ退かれ悪魔の誘惑をお受けになって打ち勝たれました。そしてガリラヤ湖という湖のあるガリラヤ地方に帰って、会堂をめぐりあるいて人々に教えられました。今日与えられているみ言葉の背景は、会堂でもたれた安息日の礼拝の様子です。イエス様はその日、お育ちになった町、ナザレにいました。立って聖書を朗読しお話しなさいました。イエス様はいつもの通り安息日に礼拝に出ていたと記されています。人々は恵み深いイエス様のことばに驚きました。小さいときから知っているヨセフの家族のイエス様だからです。今日はここから、安息日の礼拝について、安息日に何が与えられるかについて、そして安息日から送り出されることについてみ言葉に聴いていきましょう。安息日はイエス様が働いてくださり、私たちに、今日、安心を与え、目を開き、押し出してくださいます。

第一は、安息日の礼拝についてです。礼拝は安息日の中心です。安息とは、安らかな心で休息するということです。私たちの礼拝もそうです。せわしなく、騒がしくするのでなく、安らかなときです。そして私たちがいろいろ気をつかって働くために来ている、というよりも、ここで休息をとる、というときです。皆さんは一休みするときにどうなさっていますか。ちょっと

座ってお茶をのみますか。目をつぶってリラックスしますか。緊張を和らげて、ほっとするときですね。今日の安息日の礼拝はそのようなときです。

私たちは休みます。しかし、イエス様は働いておられます。イエス様は安息日の主として、私たちが休むことができるように働いてくださいます。イエス様が働いてくださるので私たちは休めるのです。

恵み深いみ言葉を語ってくださいます。私たちの罪のために十字架にかかって死んで、よみがえってくださいました。その罪の赦しを与えてくださいます。洗礼によって私たちとひとつとなってくださり、聖餐式でご自分をお与えくださる給仕をしてくださいます。

皆さんが礼拝にお越しになるときは、皆さんが働いて、神様にお仕えしたり、おささげするのではありません。神様が働いてくださって、私たちが恵みにあずかるのです。神様に愛され、赦され、新しいいのちにあずかっていますが、それでも同時に私たちは罪深く、どこまでも自分中心で、確かな希望を持てないでいます。不誠実で、不徹底で、不平と不満と犠牲者意識とで満たされることもあります。神様のことを思ったり、進んで人を愛したりする余裕もありません。不安です。目は近いところしか見ておらず、自分のことしか考えていません。恐れで満たされ、立ち上がること、歩み出すことがなかなかできません。神様の命令を知らず、守らず、気にしません。人を利用し、気にせず、愛しません。そんなけがれた私たちが一体神様に何をささげることができるのでしょう。もっとも価値あるよいものをかき集めてどんな美しい包装紙でつつんだり飾ったりしても、私たちのささげるものは実際にはつまらない、見栄えのしない、価値のないものです。

しかし、神様はご存じなのです。そんな私たちをよくご存じで、そのうえでイエス様によって私たちの存在を赦し、きよめ、新しくし、永遠のいのちを受け継ぐ者としてくださいます。礼拝において、私たちは神様の恵みに包まれ、支えられ、押し出されます。

そして、罪赦され、新しい命を受けると、私たちは自然に神様にお答えをしたくなります。内側からこみあげてきて、じっとしていられないほどです。私たちは賛美します、祈ります、ささげます。礼拝から遣わされて生活の場にまいります。神様からいただいた恵みを、自分の置かれた生活の場で生かします。このように恵みにとどまって一週間を過ごし、また礼拝に帰ってきます。

第二に、イエス様によって私たちは安心を与えられ、目が開かれ、元気に押し出されていきます。イエス様は会堂で聖書を朗読しようとされると、イザヤ書の巻物が手渡されて、61 章を開かれました。旧約聖書でイエス様が来てくださって、何をしてくださるか、という預言のところでしたから、とてもふさわしい箇所が開かれたのでした。

貧しいものに福音を伝える働きのため、神様がわたしに油を注がれた、すなわち救い主に任命された、ということです。そして、救い主としての働きは、捕らわれている人に開放を与え、

目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にするという働きであること、そして主の恵みの年であることを告げることとされています。

イエス様は捕らわれている人に開放を与えます。罪と律法にとらわれた人を自由を与えます。レビ記 25 章 42 節、55 節には、イスラエルの民はエジプトの奴隷の地から神様がモーセを用いて導き出した民である。もう誰の奴隷にもなることはない、と言われています。イエス様は私たちを罪と死と悪魔の力から解放してくださいました。もうどんな力の支配をも受けません。何か心配していますか。何か恐れていますか。何かに絶望していますか。天地をおつくりになり、今もすべ治めておられる神様が、公けに、イエス・キリストの故に、あなたの罪を赦しました。あなたの内にある罪が、これまで猛威を振るっていましたが、その力から解放されました。罪の故に死は恐ろしいものでした。イエス様は私たちの代りに死んで、死の力を滅ぼしてくださいました。今や死は、古い自分が死んで新しい体をいただくための天国への扉になりました。悪魔はあなたを追いかけて責めます。神様の前でそんないい加減な姿のままでいいとでも思っているのか、神様がイエス様によって赦すなんて、そんな甘い考えでいいのか、神様に従うよりも、自分の利益を優先して生きていくことが実際には大切だし、責任を果たすことだし、楽しいのではないか、などと、執拗に誘惑をしかけてきます。悪魔の誘惑にみ言葉をもって勝利されたイエス様は悪魔の全力の呪いをすべて身に受けて十字架にかかって死んでくださいました。その死によって悪魔の力は滅ぼされたのです。今なお威勢よく私たちを誘惑する悪魔ですが、洗礼によってイエス様とひとつにしていただいた私たちは、イエス様によってすでにその誘惑に打ち勝っています。主イエス様の名前によって祈ると悪魔は退くほかありません。イエス様は捕らわれてた私たちを解放して、安心を与えてくださいました。

目の見えない人に視力の回復を告げてくださいます。霊的に盲目になって、自分のことも、神様のことも、世界のことも正しく見えなくなっていた私たちの目を開いてくださいました。自分のことしか見ていませんでした。傷つかないように恐れていました。神様からは見られることのないところにいたいと思っていました。でも助けが必要な時には日ごろの不義理を顧みず何とか助けていただけないかなと願っていました。世界のことも見ていませんでした。正義が失われ、苦しみが増幅し、自然現象の変わっているのに、自分の生活と直接かかわりがないとそんなに関心がなくても平気でした。

しかし、イエス様は目を開いてくださいます。神様の前に罪びとである私の姿を教えてくださいます。けれどもその私を愛して、イエス様によって赦して、新しくしてくださる神様の恵みと真理を見ることができるようにしてくださいました。そして、神様のおつくりになりお支えになっているこの世にあって、私たちは自分に与えられた毎日の使命を、心を込めて、愛をこめて、人々と共に幸せをつくっていくのです。イエス様は私たちを開眼させてくださいます。

イエス様は圧迫されている人を自由にします。イザヤ書の語られた当時は、イスラエルの人々はみなバビロン帝国に捕虜になって、故郷から離されて遠く異国に連れていかれていました。

そこで政治的にも、社会的にも、経済的にも、あらゆる圧迫を受けていました。しかし、彼らはもちろん苦しいのですが、それも日常化して、慣れてしまいました。救い主はそこで圧迫されている人々を自由にします。絶望から自由にされ、希望が与えらえました。私たちも、今のすがたは最高のものではないし、そのままでいることはつらいけれど、でも慣れてきた、何とかやっていける、と思って希望を失っているときがあります。仕方がない、とあきらめてしまい、そこでの生活のやりくりに心がみたされてしまうときです。情熱を燃やせません。イエス様は、あなたの罪を赦し、新しいいのちを与えてくださいました。新しいいのちをもってこれまで希望を失いあきらめていたことに、新しい息吹を吹き込まれています。この世にあってあなたがなすべきことに、主イエス様は押し出してくださいます。

イエス様は救い主として、安息日にあなたに安心を与え、あなたの目を開き、そしてあなたを世にある使命に押し出してくださいます。

主の恵みの年を告げる働きをする、とも書かれていました。これはヨベルの年とよばれる年で、7 年の 7 倍、49 年ごとに、イスラエルの人は貸した土地を返していただきました。そしてイスラエルの民は 7 年をサイクルに生きていました。6 年間種をまいて収穫を刈り取る働きをしました。神様が 6 年目に 3 年分の収穫をくださいました。7 年目は種を植えず、土地も人も休みます。8 年目に種をまき、9 年目から収穫が再開します。私たちも日々働く働きを安息日に休むからと言って、世の働きがおろそかになるのではありません。神様はこの世での働きも同じように祝福してくださいます。むしろ、罪赦され、新しい心をいただいて、神様からいただいている賜物をリフレッシュしていただいて、世にある働きに押し出されていき、私たちは世界を変えるのです。

第三に、イエス様は安息日の礼拝で聖書朗読のあと、今聞いた聖書の言葉はそれを耳にしたとき、「今日、実現した」と言われました。ルカによる福音書の中では「今日」ということばは大切なところで何度も用いられています。天使がクリスマスの喜びが羊飼いたちに知らせた時「今日、ダビデのまちに救い主が生まれた」と言いました。エリコの町の取税人ザアカイのところにイエス様は「今日あなたの家に泊まることにしている」と言われ、「今日救いがこの家に来た」と言われました。十字架の上でひとりの強盗がイエス様を救い主と信じたとき「今日、あなたはわたしとともに天国にいます」と言われました。イエス様の働きは引き延ばされません。いつかまた将来そうなったらいいですね、ということではありません。今日です。あなたが安息日の礼拝でみ言葉をお聞きになっている「今、ここで」、イエス様が私たちに安心を与え、目を開かせ、押し出してくださいます。安息日にイエス様が働いてくださり、私たちに、今日、安心を与え、目を開き、押し出してくださいます。

「主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目の見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、 主の恵みの年を告げるためである。」ルカ 4:18b-19

人知をはるかに超えた神様の平安が,あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讃美歌 527 番　献金　献金感謝の祈り

1．わが喜び わが望み わがいのちの主よ 昼たたえ 夜うたいて　なお足らぬを思う

2．慕いまつるかいぬしよ いずこの牧場(まきば)に その群れを主は導き 養いたまえる

3．シオンの娘 語れかし わがいのちの主に 野辺にてか 幕屋にてか 会いまつらざりし

4．主の御顔のやさしさに み使い 喜び 御言葉のうるわしさに あめつち 歌えり

5．並びもなき 愛の主の み声ぞ 嬉しき わが望み わが命は 永久に 主にあれや　**アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおぉ御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ　**アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。**アーメン**

後奏